

あぐりめ〜る新川

第 42 号(平成 21 年 3 月発行)
富山県新川農林振興センター
〒938-0801 黒部市荻生 3200
(TEL) 担い手支援課 (0765)52-0268
(0765)52-5192
農業普及課 (0765)52-0094
(0765)52-0945
(FAX) (0765)52-3115

環境にやさしい農業に取り組みましょう

消費者の食の安全・安心に対する関心が高まる中で、農産物の安全性を確保するため、減農薬・減化学肥料栽培等を取り入れた環境にやさしい農業の取組みが盛んに行われるようになってきています。今回は、これらの取組みの一部を紹介します。

1 エコファーマー制度の活用を！

この制度は、「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づく制度で、堆肥等を活用した土づくりと化学肥料・農薬使用の低減を一体的に行う農業者(個人又は法人)を県が認定し支援する制度です。管内では平成 21 年 3 月現在で 157 経営体(県内は 2,250 経営体)がエコファーマーに認定されています。

エコファーマーになると、農産物のラベルにマークを使用できる他、資金上のメリットがあります。

管内では、園芸産地ぐるみでの取組みや営農組織での取組みにより、H19 年より、エコファーマーの数が増加しています。

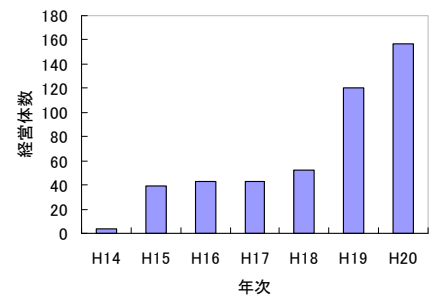


図 管内の認定経営体数の推移



◎エコファーマーの取組み事例

- ・平成 20 年 11 月、「入善町ハウス雪白ねぎ生産組合」の全組合員 14 名が白ねぎ(施設)でエコファーマーの認定を受けました。同組合では、本年の出荷用ダンボールや包装フィルムにエコファーマーのロゴマークを表示しています。この他に、白ネギ(露地)、大根等の産地単位で取組みが増えています。
- ・魚津市坪野では、平成 20 年 4 月に地区の 19 名が水稻でエコファーマーの認定を受け、堆肥の施用や有機質肥料の施用により、減化学肥料・減農薬栽培に取り組んでいます。

エコファーマー制度は、比較的取組み易いので、積極的に活用して下さい。

2 農地・水・環境保全向上対策(営農活動支援)

農地・水・環境保全向上対策の共同活動に取り組んでいる地域において、エコファーマー認定者が地域である程度まとまりをもって、化学肥料・農薬の大幅な使用低減等を行う先進的な取組みを実践した場合、その作物・面積に応じて助成金が交付されます。管内では 5 地区で実施されています。



ギャップ GAPでよい「安全・安心」！信頼アッフ！！

食品偽装表示や事故米の不正規流通などの問題が相次いで発生する中で、安全・安心な農産物へのニーズが高まっています。

富山県では、これまでの農薬や肥料の使用状況などの生産履歴記帳に加え、GAP手法を導入し、高品質で安全・安心な農作物の生産を推進することになりました。

作目別のチェックシートに基づき、自己点検を行い、高品質で安全・安心な農産物の生産に努めましょう

ギャップ GAPってなあに？

農産物の安全確保、品質の向上、環境の保全などのためのチェック項目を定め、農業者が「今やっている農作業を記録に残し改善に役立てる」取り組みのことで、英語の頭文字をとってGAP（ギャップ）と称されます。適正農業規範ともいいます。

Good Agricultural Practice
(より良い 農業生産 を 実践)

GAP導入のメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上につながります。
- ・取り組みをPRすることにより、産地の評価が高まります。

GAPを導入する作物

- ・水稲は21年産から、生産履歴記帳とあわせて全農家で導入
- ・大豆は21年産から、大麦は22年産から導入
- ・園芸作物は、平成21年度から意欲の高い産地でのモデル的に導入

水稲の県下全域での
一斉導入は全国に
先駆けた取り組みなんだ



水稲のチェックシートのイメージ

※設問に該当する場合は、右側の□の欄にチェックしてください。 氏名：

水稲全般		チェック時期 (目安)	下記の番号は、 見開きに解説 してあります。	チェック欄
全 般	1. 農事座談会への参加やパンフレット（営農情報、稲作ごよみ等）の活用などにより情報を収集しましたか。	3月	全て	<input type="checkbox"/>
品質向上	2. 土づくり資材や有機物（たい肥、緑肥等）の施用による土づくりを行いましたか。	4月	1	<input type="checkbox"/>
環境保全	3. 代かき後の濁水や除草剤（農薬）施用後7日間の水田水を流出させませんでしたか。	5月	2	<input type="checkbox"/>
	4. 稲わらは野焼きしないで、たい肥や飼料として利用したり、踏み込んだりして、適正な処理をしましたか。	10月	1、5	<input type="checkbox"/>
	5. 肥料袋、農薬の空容器などは農協等の廃プラ回収により適正に廃棄しましたか。	随 時	5	<input type="checkbox"/>
育 苗				
安全確保	6. 播種後、種子消毒済みの余った種子は、適正に処理しましたか。	5月	4	<input type="checkbox"/>
栽培管理				
安全確保	7. 肥料・農薬の購入伝票を保存し、使用状況を生産履歴簿等に記帳をしましたか。	随 時	2	<input type="checkbox"/>
品質向上	8. 肥料は「稲作ごよみ」による施用基準や生育量に応じて、適切に施用しましたか。	5月、7月	2	<input type="checkbox"/>
	9. 防除には防除情報（特報など）を活用し、発生状況等に応じた効果的な防除を行いましたか。	随 時	2	<input type="checkbox"/>
安全確保	10. 農薬は「稲作ごよみ」や農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、時期、回数を守って使いましたか。	随 時	2	<input type="checkbox"/>
	11. 周辺作物や住宅地への農薬の飛散防止に努めましたか。	随 時	2	<input type="checkbox"/>
労働安全	12. 農薬散布時は適切な防護マスク、手袋、長そで、長ズボンを着用しましたか。	随 時	—	<input type="checkbox"/>
品質向上 安全確保	13. 出穂期から20日間の湛水管理を行いましたか。	8月～9月	3	<input type="checkbox"/>
収 穫				
品質向上 安全確保	14. コンバインなどの清掃・点検を行い、収穫の際に他品種や異物が混じらないよう注意しましたか。	8月～9月	6	<input type="checkbox"/>
品質向上	15. 初黄化率などを確認し、適期収穫を行いましたか。	9月	6	<input type="checkbox"/>
乾燥・調製				
品質向上 安全確保	16. 施設内を清掃しましたか。	8月～9月	7	<input type="checkbox"/>
品質向上 安全確保	17. 乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理をしましたか。	8月～9月	7	<input type="checkbox"/>
品質向上	18. 乾燥は適切な温度管理で行いましたか。	9月	7	<input type="checkbox"/>

チェックシートに
「×」が付いてしまった！



「×」のついた項目を
改善することが大切！



こういう取り組みで
産地の信頼が高まる
のよね



環境にやさしい病害虫防除について

～園芸作物栽培での、化学農薬に頼らない防除技術や資材の紹介！！～

環境の保全や食品の安全に対する消費者の意識が高まっている中で、化学農薬以外の防除技術の開発が進んでいます。ここでは、管内の園芸作物で導入されている技術や資材についてご紹介いたします。

1 交信かく乱剤

人工的に合成した性フェロモンを用いて害虫の交信をかく乱することによって交尾を阻害し、次世代の密度を低下させる資材です。対象となる作物や、適用害虫によって、いろいろな種類があります。

交信かく乱剤の主な種類

商品名	適用作物名等	主な適用害虫
コンフューザーN コンフューザーR	果樹類	シンクイムシ類、ハマキムシ類
コンフューザーV	野菜類	コナガ、オオタバコガ、ヨトウムシ類、タマナギンウワバ
コナガコン-プラス	コナガおよびオオタバコガの加害作物栽培地帯	コナガ、オオタバコガ



コンフューザーR (りんご)



コンフューザーV (キャベツ)

【利用上の注意点】

- ・害虫の発生初期（交尾前）に遅れずに設置しましょう。
- ・狭い面積で使用すると効果が不安定な場合があるため、なるべく広い面積で使用しましょう。
- ・適用害虫以外は通常の防除が必要です。

2 黄色灯

タバコガ、ヨトウムシ等の夜行性害虫には、一定以上の明るさで行動を停止し、一定の暗さで活発に行動する性質があります。この性質を利用して、夜に黄色灯を点灯し、害虫が活動できないようにする技術です。県内ではキクや果樹で利用されています。

【利用上の注意点】

- ・作物や品種によっては、花芽分化に影響することがあるので、設置場所や照射方向を十分検討する必要があります。
- ・水稲と隣接する場合、出穂が遅れる場合があるので注意が必要です。



黄色灯 (キク)

3 太陽熱消毒

太陽熱を利用して地温を上げ、土壌病害や線虫等を防ぐ技術です。耕起・散水・マルチ後に施設を閉め切り、地温を上げて消毒する方法です。日射しの強い夏の高温期に実施します。

4 防虫ネット

施設栽培で、害虫の侵入を防ぐため、施設開口部に設置するものです。

5 生物農薬

自然界に存在する微生物や天敵昆虫を利用し、防除に活用するものです。BT剤（細菌が作り出す殺虫成分を製剤化したもの）や拮抗菌（病原菌の生息場所や栄養の摂取で競合し、病原菌の活動を抑えるもの）等があります。